

■ 英国上流社会の記録、ここに蘇る—『The Bystander』で読み解く文化と時代

『ザ・バイスタンダー』 1903-1940 年 The Bystander, 1903-1940

大変革の時代における、上流階級の価値観、関心、娯楽を探る



『The Bystander』は、1903年にGeorge Holt Thomas（イラストレーターであり社会改革者、そして『The Graphic』誌の創業者でもあったWilliam Luson Thomasの息子）によって創刊されました。その後、『The Illustrated London News (ILN)』の刊行物の一部となり、1940年には姉妹誌『The Tatler』と合併し、『The Tatler and Bystander』として発行されるようになりました。その後継誌と同様に、『The Bystander』はイギリスの「ハイ・ソサエティ（上流階級）」に焦点を当て、保守的で裕福な読者層を対象としていました。

本誌では、ファッション、演劇、スポーツに関する記事を掲載し、英国上流社会の日常をユーモラスかつ風刺的な視点で描いていました。本コレクションには、1903年12月から1940年10月までに発行された約2,000号におよぶ『The Bystander』の誌面から、13万6,000点以上の画像が収録されています。

『The Bystander』は軽妙な読み物として知られ、貴族社会の最新ゴシップ、アンティークに関するアドバイス、釣りや狩猟シーズンのレポートなどが掲載されていました。しかし、それだけでなく、当時の著名な作家や芸術家にも発表の場を提供していました。例えば、ダフニ・デュ・モーリエや「サキ (Saki)」の筆名で知られるヘクター・ヒュー・マンローの短編小説を掲載し、第一次世界大戦を題材にした「Old Bill」シリーズで人気を博した漫画家・ユーモア作家のブルース・ベアンズファーザーも寄稿していました。

『The Bystander』は、文学研究、美術史、社会史の研究者にとって貴重な資料となるでしょう。また、British Online Archivesの大型シリーズ『British Illustrated Periodicals, 1869-1970』に収録されている他の挿絵・イラスト入り雑誌コレクションと同様に、『The Bystander』も大英帝国全盛期のイギリス社会に根付いた人種差別や偏見を反映していました。そのため、植民地主義、人種、エスニシティといったテーマを近現代史の観点から探求する学生や研究者にとっても、重要な研究資料となっています。



大学・学術機関向け価格

FTE (学生数+教職員数)	3,000~4,999	5,000~9,999	10,000~19,999	20,000~29,999	30,001 以上
Archive 買い切り価格	価格は弊社までお問い合わせください				

※大学・学術機関向け IP 接続・同時アクセス無制限でのご利用となります。

※Archive 買い切りの**年間管理費 (Annual Hosting Fee)**は**不要**です。

※正式な見積価格は最寄りの弊社営業員に別途ご用命ください。

トライアルも承ります!! 詳細お問い合わせは弊社まで

日本総代理店 **極東書店**

FAR EASTERN BOOKSELLERS
KYOKUTO SHOTEN LTD

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル
〒600-8357 京都市下京区柿本町 579 五条堀川ビル
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小榎ビル

03(3265)7531 FAX (3556)3761
075(353)2093 FAX (353)2096
092(751)6956 FAX (741)0821





■ 38年間の膨大なアーカイブを、年別に38のパートに整理したコレクション

『The Bystander』は、定期コラム「The Bystander's Notes」などを通じて読者に時事問題の情報を提供していましたが、基本的には娯楽を目的とした軽妙な内容を優先していました。例えば、国際情勢を論じるのではなく、「From Abroad (海外から)」のセクションでは旅行アドバイスや人気のリゾート地のレビューを掲載していました。

本誌は陽気で風刺的なトーンを維持していましたが、英国の支配層や帝国主義的な価値観を支持し続けました。その中で、人種差別的・外国人嫌悪的なステレオタイプを助長し、さらには奴隷制度を軽視するような表現さえ見られました。

『The Bystander』には、チャールズ・ブルース・ベアンズファーザー大尉による人気漫画「Old Bill」シリーズが多数掲載されていました。これらの作品は、ベアンズファーザー自身の第一次世界大戦中のフランスでの軍務経験をもとに描かれたものです。1918年に出版された『The Bystander's Fragments from France』というベアンズファーザーの漫画集の中で、本誌の編集者は「Old Bill」やその仲間「Alf」と「Bert」の魅力について次のように述べています。「彼らは『馴染みのないほど複雑な戦争の渦中に巻き込まれた平凡な男の精神』を体現しており、『恐怖の中心においても人間の本质とユーモアが生き残ることの証明』となった」。今日、ベアンズファーザーが『The Bystander』で発表した作品は、第一次世界大戦期の英国人の想像力や価値観を理解するための貴重な資料となっています。

また、本誌は姉妹誌と同様に、英国の美術・文学界の最前線で活躍する人物の寄稿を多く掲載していました。例えば、20世紀の英国を代表する小説家のひとり、ダフニ・デュ・モーリエの作品を初めて掲載したのも『The Bystander』でした。実は、デュ・モーリエの叔父であるWilliam Comyns Beaumontが本誌の編集者を務めていました。

『The Bystander』は、読者の嗜好の変化を反映しています。定期コラム「Menu」では、ディナーパーティーを開く人々のためにレシピや料理のアイデアを紹介していました。同様に、「London Nights」では、ロンドンにおけるレストラン文化の発展を取り上げていました。歴史家 Phil Lyon (2020年)は、第一次世界大戦後の数十年間で外食文化がますます普及したことを指摘しています。ロンドンのレストランでの「夜の夕食」は、もともと裕福な市民の間で人気がありましたが、1930年代には「夕食の楽しみが、社会の他の層にも定期的に広がる条件が整った」と Lyon は述べています。



British Online Archives の詳細お問い合わせは弊社まで



日本総代理店 **極東書店**

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル

TEL: 03-3265-7531 FAX: 03-3556-3761 <https://www.kyokuto-bk.co.jp> E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp